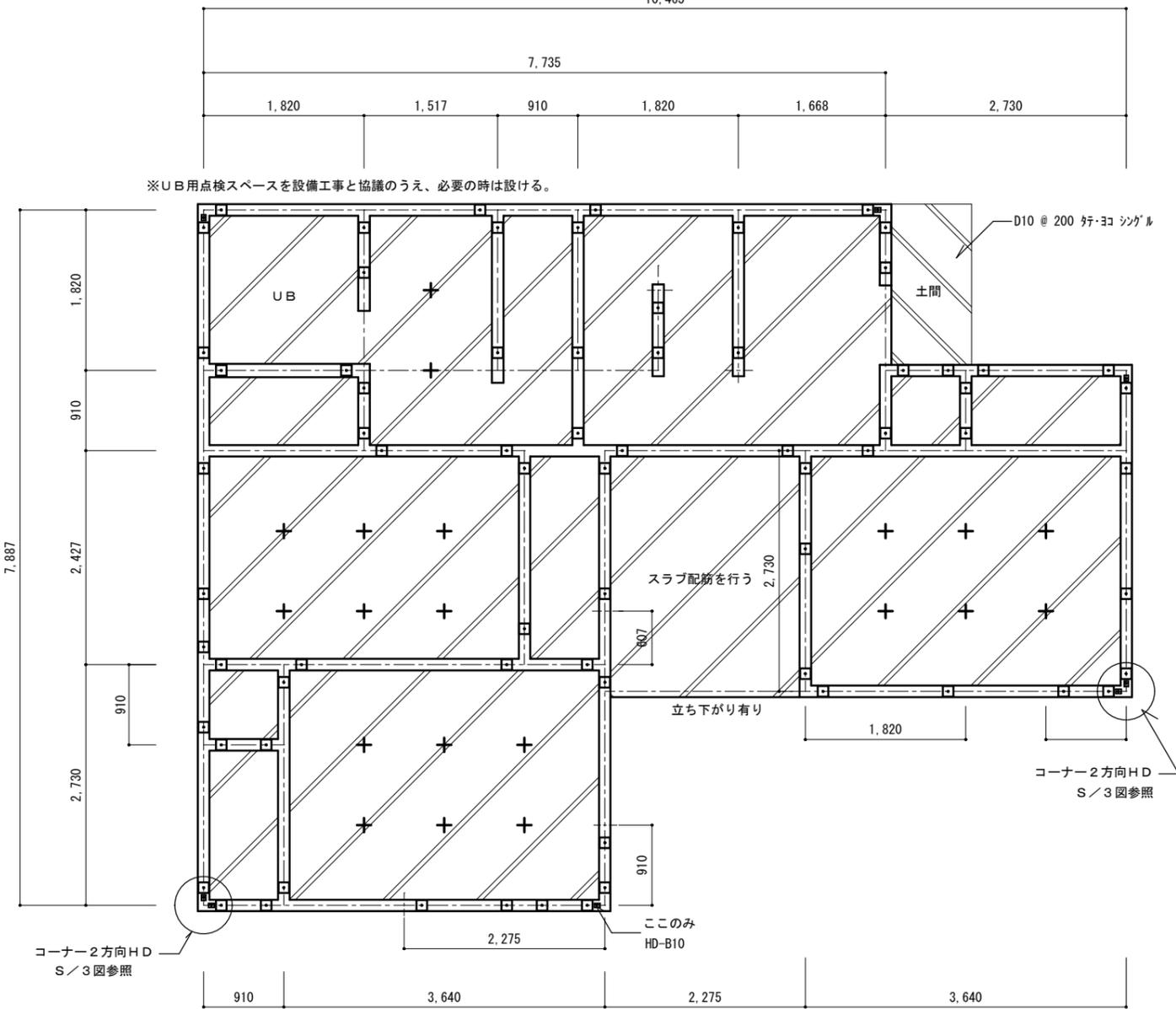
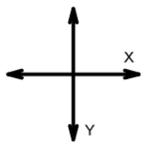


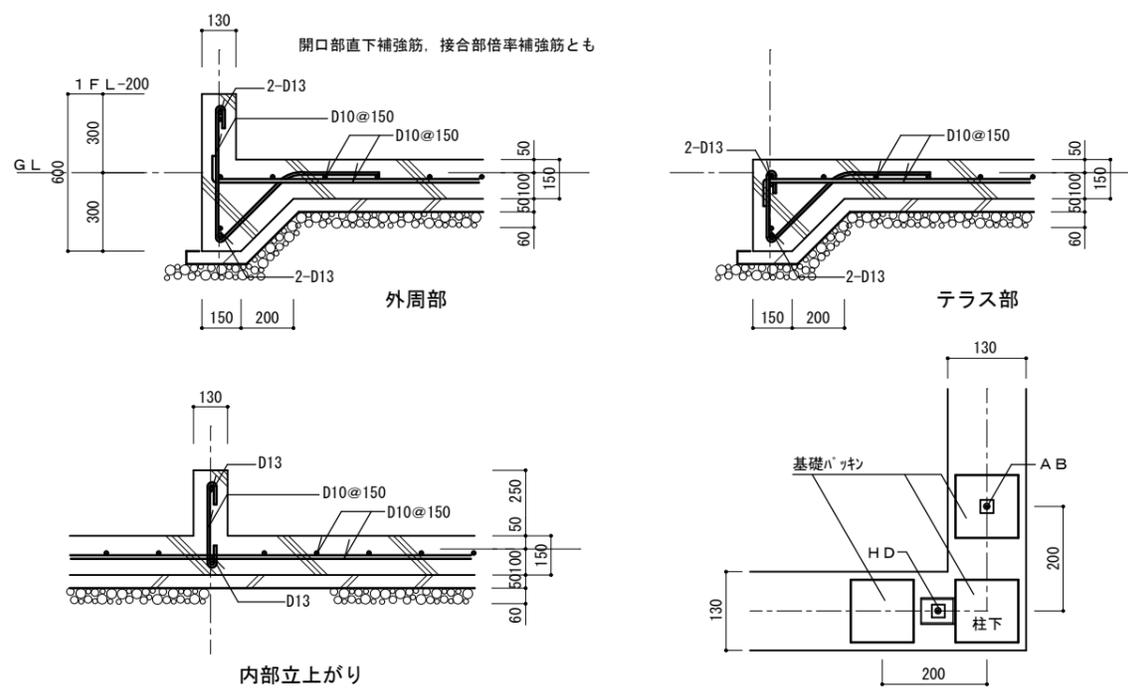
わ を る ぬ り ち と へ ほ に は ろ い
10.465



※UB用点検スペースを設備工事と協議のうえ、必要の時は設ける。



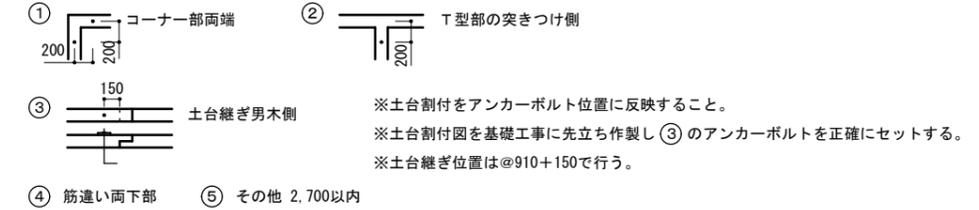
吉
武
参
四
五
六
七
八
九
拾
拾壹



基礎部分断面図 1 : 20

凡例	
+	東石 150×150×50
•	A B アンカーボルト
□	基礎パッキン 120角×20 @910以下
⊠	基礎パッキン+A B
⊠	HD金物 15KN (10KN) : 1ヶ所のみ

- ・コンクリート断面は下図による。コンクリート強度はFC18 (180kg/cm²)以上とする。
- ・設備配管用スリーブはあらかじめ設け、開口補強を行うこと。後ハツリはつりしないこと。
- ・通気口は設けず、基礎パッキン工法とする。
- ・基礎パッキン：サスマックス同等品120角×20 柱下、コーナー部200で隣接、T字部200で隣接、その他は@910程度以下で設置。
- ・東石コンクリートはモルタルにてスラブに固定する。
- ・アンカーボルト配置



いずれも基礎パッキンを介して設置する。
 ・図示の主要位置のアンカーボルトはホールダウン金物とする。
 ・アンカーボルト、ホールダウン金物は公庫仕様のものを用いる。
 ※土台割付をアンカーボルト位置に反映すること。
 ※土台割付図を基礎工事に先立ち作製し③のアンカーボルトを正確にセットする。
 ※土台継ぎ位置は@910+150で行う。

※アンカーボルトはコンクリート打設前に鉄筋または型枠に固定する。正確な墨出しを要する。後差しはしない。
 特に、筋違脚部にHDがくる時は要注意。

※土台木取り(割り付け)図をアンカーボルト設置図と共にコンクリート打設前に監理者に提出すること。

※土台の座堀は行わない。アンカーの座金+ナットは土台上面で締めること。

構造筋違はすべて45×90の片筋違(2倍壁)で計算。



件名	A 邸新築工事	SCALE	1/50	S 2
図名	構造図-2 基礎	DATE		
デザインシステム新田建築事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録No. 30240 一級建築士 新田広史 建設大臣登録No. 165569				